

1 単元 よこ書き—1年生にしょうたいじょうをおくろう—

2 目標

- 日常生活の中には、横書きのことが多いことに気づき、横罫用紙に文字が曲がらないように気をつけて書くことができる。
- 姿勢や鉛筆の持ち方に気をつけて、文字をていねいに書くことができる。
- 自分のめあてを決めて、進んで練習に取り組む中で、自分や友達の伸びに気づき、文字を書く楽しさを感じて生活に生かしていこうとする。

3 指導計画（全2時間）

第1時 日常生活の中には、横書きのことが多いことに気づき、どんなことに気をつければ横書きが読みやすく書けるのかを考えて書く。

第2時 横書きの書き方に気をつけて、1年生への招待状を書く。……………（本時）

4 指導上の立場

- 国語の書き表し方としては、伝統的な形が右からの縦書きであるが、生活の中で左からの横書きが普及しており、児童がノートやプリントに書くときもほとんど横書きである。2年生でも、算数や生活科の調べ学習の成果、まとめを記録するときには横書きである。児童も実生活の中で横書きのことが多いことに気づいている。これらのことから、横書きを読みやすく書くポイントについても知らせておくことが大切であると考えた。書写での横書きは初めて学習する内容なので、興味・関心をもたせるとともに、自分のめあてに合った練習が楽しくできるよう工夫し、簡単な横書きができるようにした。また、本単元は、生活科だけでなく算数など他教科での書く活動とも関連があり、親しみやすく、学習後も多様に生かしていくことができると思われる。

- 本学級の児童は、書写の時間には、正しく整った文字を書こうとする真剣な姿が見られる。また、「新しい漢字を書きたい」「もっと上手になりたい」という願いをもっており、自分の上達を感じたり、友達や教師に認められたりすることで自信をもち始めている。しかし、生活科の『見つけたよ！カード』などでは、横書きの行がまっすぐ書けなかったり、行いっぱいに字を書いて最後まで書くことができなくなったりするなど、苦労している様子が見られる。また書くときの姿勢や鉛筆の持ち方がまだ十分身につかず、特に夢中になると適切でなくなる児童も多い。

そこで、楽しく横書きを学習する活動を通して、文字を正しく、読みやすく書こうという気持ちを高め、もっといろいろな場でも横書きの文字を進んで書いてみようという態度を育てたい。また、正しい姿勢や鉛筆の持ち方に気をつけて書いたり、自分のめあてにそって練習したりしながら、自分や友達の伸びに気づかせたい。

- 研究テーマ「書く楽しさや喜びを味わい、生活に生かす書写学習」に迫るために、生活科の学習と関連づけて単元を設定した。生活科『1年生となかよくなろう』では、「学校たんけん」（4月）・「お楽しみ会をしよう」（7月）・「なかよしフェスティバル」（11月）という活動を計画している。7月の「お楽しみ会をしよう」の活動では、話し合いの結果、本学級ではゲーム大会をすることになり、1年生に招待状を出して知らせることにした。

「つかむ」活動では、ゲーム大会のことにふれ、「1年生に喜んでもらいたい」という児童の気持ちを大切にしながら、意欲をもって学習できるようにした。また、ダックスフント君により横書きのポイントを楽しく意識させるようにした。

「すすめる」活動では、さまざまな練習の場を設定し、児童が楽しみながら自分で決めためてにそった練習方法が選べるようにした。また、段階を追って練習できるような練習用紙を用意した。

「たしかめる」活動では、友達とよいところを認め合う評価の場を工夫し、評価を通して友達との交流を深め、ともに高めていこうという気持ちがもてるよう計画した。

このように、児童が進んで学習に取り組み、書く喜びをもつことができるようにすることで、生活に生かしていこうとする態度を育てていきたいと考える。

5 本時案（第2時）

目 標	・横罫用紙に文字が読みやすいように気をつけて書くことができる。 ・姿勢や鉛筆の持ち方に気をつけて、文字をていねいに書くことができる。 ・自分や友達の伸びに気づき、書くことを楽しみ、生活に生かそうとする。		
学	習 活 動	教 師 の 支 援	準 備
つ か む	1 めあてをもつ。	○書写体操をすることにより、正しい姿勢や鉛筆の持ち方を確認し学習意欲を高める。 ○ゲーム大会のことにふれ、1年生に喜んでもらいたいという気持ちがふくらむようにする。 ○ダックスフント君を提示することで、横書きするときに気をつけることを思い出し、進んで書こうとする意欲がもてるようにする。	ダックスフント君
	横書きを読みやすいように正しく書こう		
	・試し書きをする。	○絵の入った学習カードを用意し、楽しく試し書きができるようにする。 ○スケールを当てたり、お手本と比べたりして、うまく書けたところは赤○、うまく書けなかったところは赤△で、印を付けることにより、自分の課題の箇所がはっきり分かるようにする。	学習カード スケール 赤鉛筆
	・正しい書き方を思い起こす。 ・自分のめあてをもつ。	○話し合いにより、前時に学んだ横書きの正しい書き方を思い起こしてから自分のめあてを考えるようにする。 ・横罫用紙に文字が曲がらないように書く。 ・罫と罫の中ほどに書く。 ・行頭を考えて書く。 ○学習カードに自分のめあてを書くことにより、各自がめあてをもって練習できるようにする。 ○めあてがもちにくい児童には、上手に書けているところを認めながら、今日がんばるところを見つけられるよう助言する。	ダックスフント カード

すすめる	2 練習する。 ・場を選んで練習する。	○5つのコーナーを設定し、自分のめあてに合った場を選んで練習できるようにする。 <ホワイトボード> 大きく書き、全体を確かめることにより、行の中心にまっすぐ書けているか確かめる。 <小黒板> 中ほどに書けているかを確かめる。 <パズル1> 罫に文字をはめ、字配りや行頭の位置を確かめる。 <パズル2> 罫に文をはめ、書く位置を確かめる。 <練習用紙> 中心線や補助線の入ったプリントで、文字の中心や書く位置を確かめながら、練習する。 ○自分のめあてに合った練習の場が選べるように、各コーナーに横書きのポイントを表示する。 ○コーナーがなかなか選べない児童には、めあてに合ったコーナーはどこか相談にのるようにする。 ○教師は各コーナーをまわり、めあてに合った練習ができているかどうか確認する。 ○操作活動で確かめができた児童には、繰り返し練習ができるよう、練習用紙を使って練習に取り組んでいくよう助言する。	ホワイトボード 小黒板・チョーク ・黒板消し 板・字パズル 板・文パズル 練習用紙①～④
たしかめる	3 まとめ書きをする。 4 学習カードを書く。 ・自己評価する。 ・相互評価する。 5 招待状を渡しに行くことを確認する。	○横書きするときに気をつけることを確認し、意欲を高めて、自分の招待状に清書できるようにする。 ○めあての確認をしてから、学習カードに記入するようにする。 ○自分の試し書きとまとめ書きとを比べて、上手になった所を○でかこみ、楽しく評価することができるようにする。 ○隣同士で、友達のまとめ書きのよいところに○をつけ、お互いの伸びを認め合うことができるようにする。 ○教材提示装置を使い、一人の児童のがんばりを紹介して、みんなで認め合うことができるようにする。 ○次の生活科の時間にメッセージも書き、招待状を仕上げて、1年生に渡しに行くことを伝え、ゲーム大会を心待ちにする気持ちをさらにふくらませるようにする。	清書用紙 教材提示装置